

2013年8月21日 全5頁

混乱が続くエジプト情勢

高騰する原油価格、冷静な株式市場

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 7

ロンドンリサーチセンター
シニアエコノミスト 菅野 泰夫
研究員 沼知 聡子

[要約]

- エジプト情勢の混乱に収束の糸口が見えない。8月14日、軍事クーデターを起こした暫定政権は、首都カイロで抗議活動を行っていたモルシ前大統領支持者を中心としたムスリム同胞団（イスラム主義勢力）に対し、武力による強制排除を行った。この衝突により、カイロのみならずアレキサンドリアなど地中海沿岸都市でも治安部隊との激しい衝突が繰り広げられ、死者は、現在まで観光客や英国人ジャーナリストを含む1,000人近くに達している。
- 7月に発生した軍事クーデター後、ムスリム同胞団と軍部では（各国の仲介を経て）平和的な解決に向けて交渉が進められていた。しかし、2014年の総選挙前までに一時的にでもモルシ前大統領と憲法の復権を求めるムスリム同胞団の主張に対して、短期間でも復権は認められないとする軍部側との交渉は平行線を辿っていた。
- エジプトの動乱が長引くにつれ、スエズ運河等の地政学的リスクの高まりから原油価格は高騰している。ロンドン原油先物市場では北海ブレント先物価格が1バレル111ドル近辺を付けた。一方、18日に再開された株式市場では、前回の軍事クーデター近辺に大幅な調整に見舞われた水準まで下落するに至っていない。ムバラク政権退陣後も産業界に大きく影響しなかったことを考慮すると、エジプト市場の企業や投資家は政情不安に耐性が強いともいえよう。
- アラブの春以降、政権安定にもたついたムスリム同胞団は、国民のためでなく、自身の利益を追求する政権運営に終始した。国民間の合意形成を顧みず自らが思い描くエジプトを形作ろうとしたといえる。今回の軍事クーデターを起こした暫定政権とその支持者たちも、同様の行為を繰り返しているといえるだろう。軍部とイスラム主義勢力との断絶は深く、事態の収束には相当の時間がかかることが予想される。

1. 泥沼化するエジプト情勢

～クーデター後の抗議デモより武力弾圧に発展～

エジプト情勢の混乱に収束の糸口が見えない。8月14日、軍事クーデターを起こした暫定政権は、首都カイロで抗議活動を行っていたモルシ前大統領支持者を中心としたムスリム同胞団（イスラム主義勢力）に対し、武力による強制排除を行った。この衝突により、カイロのみならずアレキサンドリアなど地中海沿岸都市でも治安部隊との激しい衝突が繰り返され、死者は、現在まで観光客や英国人ジャーナリストを含む1,000人近くに達している。

暫定政権は約1カ月の国家非常事態宣言を発令、カイロなど13州には夜間外出禁止令も出された。モルシ派は依然としてモルシ前大統領と一時停止されている憲法の復権を要求しており、事態の平和的な収束は遠いともいえる。武力行使に反対していたノーベル平和賞受賞者のエルバラダイ副大統領（国際原子力機関：IAEA 前事務局長）は辞意を表明し、国連はじめ各国からも、暫定政権に対して、一斉に非難の声が上がっている。

2. 武力弾圧に至るまでの経緯

～ムスリム同胞団か反同胞団かの選択～

モルシ前大統領支持者による座り込みの抗議活動は、反モルシ政権デモが始まる数日前（6月28日）から行われていた。「自由選挙で選ばれたモルシ大統領の正当性を守る」との主張のもと、抗議活動は7月3日の軍事クーデターの間も続けられ、その後も治安部隊との武力衝突を繰り返しながら1カ月以上にわたり繰り返された。その間、世俗・リベラル派が大半を占める暫定政権は、確固としたリーダーシップを発揮できずにいる上、モルシ政権打倒を求めデモを行った左翼、キリスト教派、ムバラク元大統領の信奉者などの連帯感も薄れつつある。一方で、モルシ政権下では様々な派閥間の内紛に明け暮れ、反モルシを標榜するグループすら存在したイスラム主義勢力は、暫定政権に対抗するために団結した。

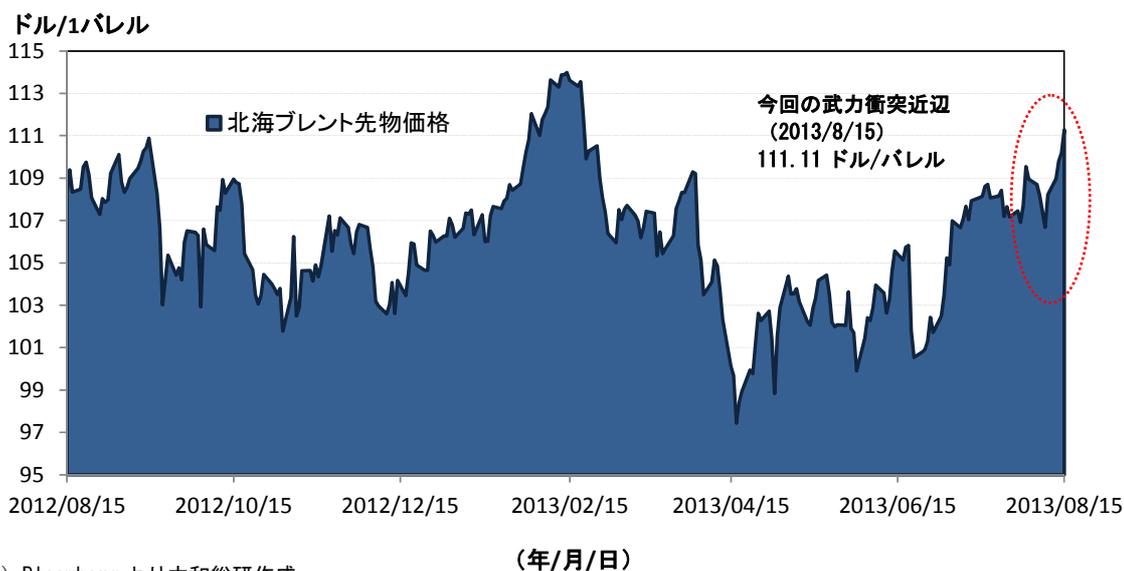
軍事クーデター後、彼らにとっての選択肢は明確なものとなった。すなわち世俗主義ではあるものの抑圧的で武力行使を厭わない軍部か、イスラム主義者であるムスリム同胞団かの二者択一である¹。軍部とイスラム主義勢力の対立は、双方妥協の余地を見せないままに進み、イスラム主義勢力による座り込みの抗議は激しさを増すとともに、地理的にも拡大した。ただし、この間もムスリム同胞団と軍部では（仲介を経て）平和的な解決に向け交渉が進められていた。しかしながら、2014年の総選挙前までに一時的にでもモルシ大統領と憲法の復権を求めるムスリム同胞団に対し、軍部は短期間であってもモルシ氏の復権は認められないとし、交渉は平行線のままに終わっている。事態の平和的な収束を目指し、米国やEUのほか、カタールやUAEも調停に乗り出したが、結果は不発に終わった。

¹ モルシ氏退陣を支持した唯一のイスラム主義政党は、現在では暫定政権と距離を置き、国民からの信頼回復に努めている。座り込みの抗議活動にも巻き込まれつつある。

3. 高騰する原油価格と冷静な株式市場

米国はエジプトとの合同軍事演習の中止を示唆、欧州連合(EU)は、エジプトへの ODA など公的援助の見直しを表明している²。ただし米国、欧州ともに民間の援助停止等、抜本的なエジプト政府への制裁に踏み切ることには躊躇気味だ。その理由として、エジプトのさらなる動乱は、スエズ運河の安定運行や他の中東諸国へ波及するなど、地政学的リスクが甚大であることが挙げられる。資源国ではないエジプトが輸出する石油やガスは少量であるが、スエズ運河を通過する原油やスエズ・地中海パイプラインが輸送する原油供給ルートの安定運行が、原油価格にも大きな影響があるといわれている。ロンドンでは、エジプトの緊張が高まるなか原油価格の指標である、インターコンチネンタル取引所(ICE)において北海ブレント原油先物価格は1バレル 111 ドル台を付けるなど今年初頭に付けた水準まで上昇した(図表1)。アラブの春以降、エジプト情勢の混乱のたびに上昇する価格を留意すると、今後のエジプトの動乱が長引くかぎり、原油価格の更なる高騰は避けられないともいえる。事態の収束に圧力を掛けきれない米国、EU の苛立ちが続く展開が予測される。

図表1 北海ブレント原油先物価格



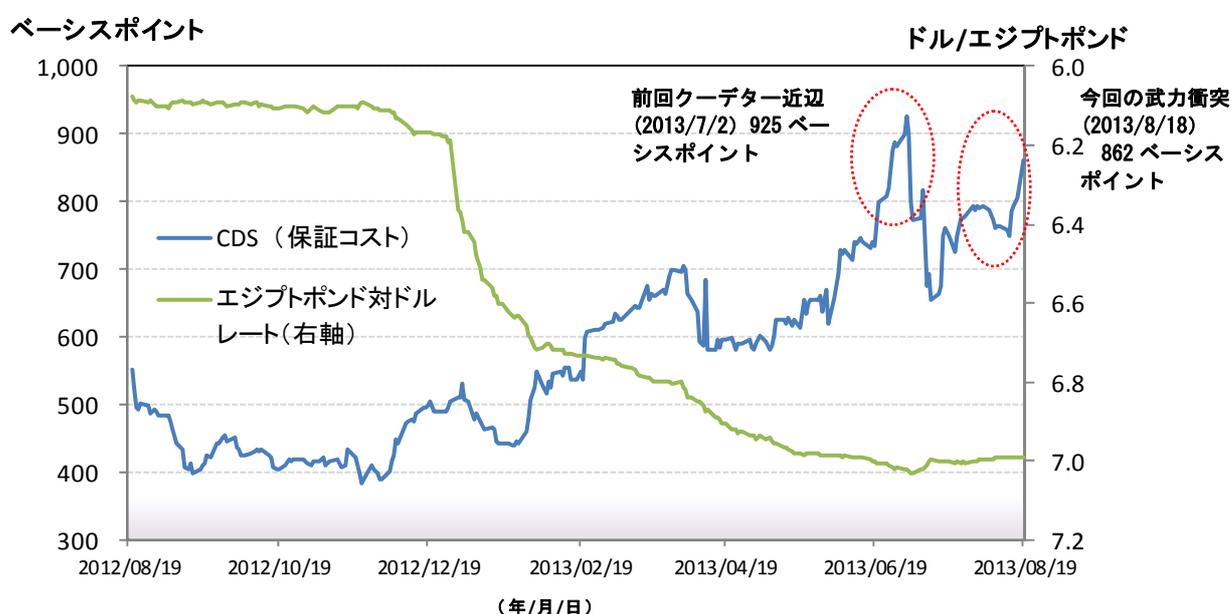
(出所) Bloomberg より大和総研作成

エジプトの動乱の影響は他の金融市場にも表れている。エジプト国債5年物のCDSスプレッド(保証コスト)は860ベースポイントを超える水準まで上昇し、2ヵ月前の軍事クーデターの際に付けたピーク水準まで近づいていることが分かる(図表2参照)。また、エジプトポンドも対ドルにおいて安値で推移していることに変わりはない。今後、新政権が樹立したとしても、財政問題や失業率等、内政の課題は山積みであり、地政学的リスクが低下する可能性は低い。ムスリム同胞団は依然として一定の勢力を維持しているだけに、今後は地下に潜伏します

² 8月18日、EUのファンロンパイ欧州理事会常任議長とバローゾ欧州委員会委員長は、2年間で最大50億ユーロ(約6500億円)の経済支援の実行を見合わせる事など、EUとエジプトとの関係を見直すとの共同声明を出した。

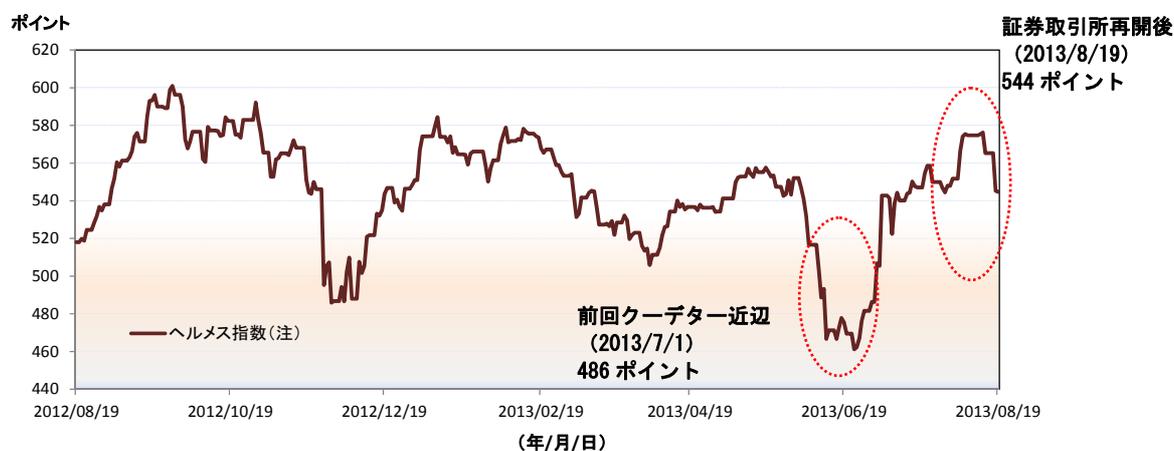
ます過激化する可能性も警戒する必要もある。いずれにせよ政治情勢は依然として流動的であり、情勢が安定するまで、原油価格や保証コスト等は予断を許さないといえるであろう。一方で、武力衝突以降、（一時的に）営業停止や国外退去する多国籍企業が増加する傍ら、国内企業や工場は、週明け以降、通常どおり操業を開始している先も多く、（良くも悪くも）危機慣れした国民性が垣間見られる。今回の動乱後、営業停止を余儀なくされたエジプト証券取引所も18日には再開し、初日こそ大きく株式市場全体が下落したが、その後は下落幅も限定的であり前回クーデター時の水準には達していない（図表3参照）。ムバラク政権退陣後も産業界に大きく影響しなかったことを考慮すると、エジプト市場の投資家や企業は政情不安に耐性が強いともいえよう。

図表2 エジプト国債のCDS（保証コスト）と通貨の交換レート（対ドル）



(出所) Bloomberg より大和総研作成

図表3 エジプト株式市場



(注) カイロ・アレクサンドリア証券取引所上場のエジプト企業株式のうち最も活発に取引される銘柄全体の動向を表す時価総額加重平均指数

(出所) Bloomberg より大和総研作成

4. アラブの春は何処に（まとめにかえて）

アラブの春後、政権についてムスリム同胞団は、国民間の合意形成を顧みず、自らが思い描くエジプトを形作ろうとした。今回、シシ軍司令官とその支持者たちも、また同じことを繰り返している。民主的な政治を目指すといいながらも、イスラム主義勢力であるムスリム同胞団に加えた容赦ない武力行使は、政敵の抹殺に近く、軍事クーデター後の独裁政権というお決まりの図式が浮かんでくる。

国家非常事態宣言が発令された後も、モルシ派は街頭での抗議活動を続けようとしている。無論、武力弾圧に踏み切った暫定政権も一枚岩ではない。座り込みの拠点を速やかに解散させようとする軍部・警察、大半の閣僚に対し、エルバラダイ副大統領を含むリベラル派の一部は最後まで武力行使に懐疑的であった。一方で、モルシ派の抗議活動に対しても、平和的ではなかったとし、今回の弾圧を評価する政党が存在することも事実である。

ただし、今回の武力弾圧は、現在のエジプト情勢の何の解決にもならず、事態は混迷を極めただけである。エジプトの金融市場が沈静化するには、政治的な安定が不可欠であり、それがなければ、調整が長引く可能性も考えられるであろう。軍部とイスラム主義勢力との断絶は深く、収束には相当の時間がかかることが予想される。

(了)